



社会福祉法人

南山城学園

Minami yamashiro gakuen
60th anniversary

おはよう。
こんにちは。
おやすみ。



2015年から2025年へ。
みなさまにとって、どんな10年だったでしょうか。

おはよう。こんにちは。おやすみ。
その一度一度をかけがえのないものとして、
欠かすことなく交わされたあいさつ。

そんな利用者様と職員の日々の重なりが、
この10年の歩みを支えています。

平坦ばかりでない毎日を、
大切に、大切に、つないで。
南山城学園は、60周年を迎えました。





Minami yamashiro gakuen



60th anniversary

南山城学園の過去・現在・未来 ～この道は遠くとも～

南山城学園の過去・現在・未来 ～この道は遠くとも～

南山城学園の過去・現在・未来

「この道は遠くとも」

社会福祉法人南山城学園
理事長 磯彰格

2025年2月2日、社会福祉法人南山城学園は創立60周年という大きな節目を迎えることができました。この歴史ある歩みを刻むことができましたのも、日々ともに歩んでくださる利用者様、ご家族、地域の皆様、そして行政・関係機関の皆様のご理解とご支援の賜物であり、心より深く感謝申し上げます。

「この道は遠くとも」—これは、初代理事長・磯齊志が私たちに託した、より良い社会を創る者としての覚悟と希望を象徴する言葉です。この10年、私たちはこの言葉を胸に、「ネクストビジョン2025」のもと、「暮らしの質の向上 (Quality)」 「経営資源の有効活用 (Resource)」 「創造性の発揮 (Creativity)」 という3本の柱を軸に、福祉の専門性の向上と経営安定化の両立を目指し、地域共生社会の実現に向けて着実に歩みを進めてまいりました。

私たちの根幹にあるのは、利用者様一人ひとりの幸福追求という揺るぎない理念です。障害者福祉、高齢者福祉、保育、生活困窮者支援といった多岐にわたる分野において、地域の多様なニーズに応えるべく、先進的かつ実践的な取り組みをパイオニア精神で積み重ねてまいりました。たとえば、幼保連携型認定こども園「ゆいの詩」や「Cocoro島本」の開設、農福連携やKOUFUKU（工・福）連携による新たな就労モデルの創出、循環型ファームの構築などは、福祉の枠を超えた社会的価値の創造に資するものと自負しております。

また、複数法人による連携型インターンシップの実施や、科学的根拠に基づく支援の推進など、次代を担う福祉人材の育成にも力を注いでまいりました。これらの取り組みは、地域の中で支え合い、共に生きる「共生・共助」の地域づくりを目指す、私たちの基本姿勢を体現するものです。

一方で、この10年は、新型コロナウイルス感染症の世界的流行、物価の高騰、自然災害の頻発など、福祉現場にとっても多くの困難が立ちはだかる時期でありました。しかしながら、私たちは「社会になくてはならない存在」としての使命を胸に、感染対策を徹底しつつ、福祉サービスの継続と利用者様の安全確保に全力を尽くしてまいりました。

とりわけ、コロナ禍においては、私たち福祉従事者が「エッセンシャルワーカー」として、社会の基盤を支える重要な役割を担っていることが、改めて広く社会に認識されました。人と人とのつながりが希薄になりがちな時代にあって、私たちは、最も支援を必要とする方々の暮らしに寄り添い、支え続けることの大切さを実感しております。

2025年4月からは、新たな10年の指針として「ネクストビジョン2035」が始動いたしました。人口減少、価値観の多様化、技術革新といった社会の変化の中でも、私たちは「変わらぬ理念」と「変わり続ける実践」を両輪に、未来志向の福祉サービスを創造してまいります。これからも、社会福祉法人として、地域に根ざし、地域とともに歩む福祉のあり方を追求し続けてまいります。

「この道は遠くとも」—この言葉のとおり、私たちの歩みは決して平坦なものではありません。しかし、利用者様一人ひとりの幸福を追求するという不変の使命がある限り、私たちは歩みを止めることなく、未来へと進み続けてまいります。

本記念誌が、南山城学園の過去・現在・未来をつなぐ架け橋となり、地域の皆様、行政・関係機関の皆様とともに、次なる挑戦への希望と決意を共有する一助となれば幸いです。

今後とも、変わらぬご理解とご支援を賜りますよう、心よりお願い申し上げます。

磯 彰 格



History 2015年から2025年の歩み

2015

\スタート!/\



ネクストビジョン2025 (中期経営計画2020) 始動

4月、今後10年間を見据え、法人理念を実現するために目指すべき方向を示した「ネクストビジョン2025」が始動。



小規模保育園 開設 (かぜの詩・そらの詩・はなの詩)

4月、地域の子育てニーズに応えるため、小規模保育園を開設。地域との連携を深め、健やかな成長を支援。



50周年記念式典・祝賀会 開催

5月、法人創立50周年を記念し、利用者様、ご家族、地域の関係者の方々の招いた式典と祝賀会を開催。

2017



きょうと福祉人材育成 認証制度上位認証 取得

3月、人材育成と職場環境の充実が評価され、「きょうと福祉人材育成認証制度」において上位認証を取得。



エキスパート制度 創設・ 多様な正規職員制度 導入

4月、専門性を活かした人材育成を目的にエキスパート制度を創設。柔軟な働き方とキャリア形成を支援。



若年者等就労支援拠点サザン京都 開設

6月、若年や就労困難者の社会参加を支援する拠点を開設。個別支援と地域連携により就労への道筋をサポート。

2019



地域福祉支援センター島本 開設

4月、利用者様の地域生活を支える拠点として、「地域福祉支援センター島本」を開設。



るりの詩保育園 開設

5月、大阪府島本町の待機児童問題を解決すべく、小規模保育園「るりの詩保育園」を開設。



グループホーム長池 開設

6月、既存のホームの老朽化に伴い、グループホームの運営体制を再編し、「グループホーム長池」を開設。

2016



新しい作業棟(希・望) 完成

2月、利用者様の多様な活動を支える作業棟「希・望」が完成。個々の能力を活かした就労支援を推進。



「7つの誓い」ハンドブック 作成

3月、法人理念を職員一人ひとりが実践できるよう、「7つの誓い」をまとめたハンドブックを作成。



もりの詩保育園 開設

4月、小規模保育3園の母体となる保育園として「もりの詩保育園」を開園。

2018



虐待防止委員会サービス向上プロジェクト 設置

4月、支援の質向上と利用者様の権利擁護を目的に、虐待防止委員会にサービス向上プロジェクトを設置。



地域福祉支援センター宇治小倉 開設

6月、利用者様の地域生活を支え、地域住民の交流の場の拠点となる「地域福祉支援センター宇治小倉」を開設。



大規模災害部会において 自治連合会等と初合同訓練 実施

11月、自治連合会等と連携した初の合同訓練を実施。地域との協働による防災体制の構築に向けた一歩に。
※「彩雲館」、「醍醐和光多目的ホール」がそれぞれ城陽市、京都市より福祉避難所として指定。

世の中の出来事

2015

♥ 社会保障・社会福祉関連トピック

4月 | 子ども・子育て支援新制度施行

4月 | 生活困窮者自立支援法施行

💬 ユーキャン新語・流行語大賞

「爆買い」

2016

♥ 社会保障・社会福祉関連トピック

4月 | 熊本地震

8月 | 相模原障害者施設殺傷事件

💬 ユーキャン新語・流行語大賞

「神ってる」

2017

♥ 社会保障・社会福祉関連トピック

4月 | 改正社会福祉法施行

7月 | 九州北部豪雨

💬 ユーキャン新語・流行語大賞

「インスタ映え」

2018

♥ 社会保障・社会福祉関連トピック

6月 | 働き方改革関連法成立

7月 | 西日本豪雨

💬 ユーキャン新語・流行語大賞

「そだねー」

2019

♥ 社会保障・社会福祉関連トピック

4月 | 改正入管法施行

6月 | 老後資金「2000万円問題」報道

💬 ユーキャン新語・流行語大賞

「ONE TEAM」

2020



障害者支援施設和の2寮 (榊寮・榛寮)を2施設に分割

4月、利用者のニーズにより柔軟に対応するため、和の2寮（榊寮・榛寮）をそれぞれ独立した施設として再編。



スーパーローテーション制度 導入

4月、多様な経験と専門性の向上を目的に、複数部署を一定期間で異動するスーパーローテーション制度を導入。



中期経営計画2025 始動

4月、SDGsを視野に入れ、経営の持続性と地域共生社会の実現の両立を目指す「中期経営計画2025」が始動。

2022



孤独・孤立対策官民連携 プラットフォーム 参画

2月、地域での孤立・孤独の解消を目指し、国の「孤独・孤立対策官民連携プラットフォーム」に参画。



認定こども園ゆいの詩・ こども発達支援Cocoro島本 開設

4月に幼児教育と保育を一体的に提供する「ゆいの詩」、6月に発達支援に特化した「Cocoro島本」を開設。



社会福祉連携推進法人きょうと 福祉キャリアサポート 創設

8月、福祉人材の確保・育成を目的に、複数法人が連携する「きょうと福祉キャリアサポート」を創設。

2024



能登半島地震支援に 京都DWATとして職員派遣

1月、京都DWATの一員として、能登半島地震の被災地へ職員派遣。災害対応力の向上と連携体制の強化を図る。



社会福祉連携推進法人 きょうと福祉キャリアサポートによる就職フェア 「フクシロフェア」共同開催

3月、社会福祉連携推進法人「フクシロフェア」を共同開催。福祉の魅力発信と若手人材との接点づくりを図る。



初任給引き上げ・4週8休 制度（年間休日120日）導入

4月、職員の働きやすさと定着率向上を目指し、初任給の引き上げと年間休日120日の新制度を導入。

2021



新型コロナウイルスワクチン職域接種 開始

7月、新型コロナウイルスの感染拡大防止と職員・利用者の安全確保を目的に、法人内で職域接種を開始（延べ約5,000名）。



KOUFUKU（工・福）連携プロジェクト 始動

8月、大学・企業との連携・協働による新たな就労支援モデル「KOUFUKU（工・福）連携プロジェクト」が始動。



新型コロナウイルス感染症予防研修 実施

10月、新型コロナウイルス感染症対策の徹底を図るため、全職員を対象に予防研修を実施。

2023



連携型インターンシップ 実施

2月、複数法人間連携によるインターンシップを実施。実践的な学びの場を提供し、学生のキャリア形成に寄与。



フィリピン人EPA 介護福祉士候補生受け入れ対応

7月、国際的な人材交流を推進し、EPA制度に基づくフィリピン人介護福祉士候補生の受け入れに向けた対応を開始（2024年12月より2名受け入れ）。



こども発達支援Cocoro音楽療法 開始

12月、Cocoroにて子どもの情緒や発達を支える音楽療法を導入。個々の可能性を引き出す療育支援を展開。

NEXT 2035

→ 2020

♥ 社会保障・社会福祉関連トピック

4月 | 新型コロナウイルス感染拡大

7月 | 7月豪雨災害

💬 ユーキャン新語・流行語大賞

「3密」

→ 2021

♥ 社会保障・社会福祉関連トピック

1月 | コロナワクチン接種開始

6月 | 孤独・孤立対策担当大臣新設

💬 ユーキャン新語・流行語大賞

「リアル二刀流／ショートタイム」

→ 2022

♥ 社会保障・社会福祉関連トピック

4月 | 社会福祉連携推進法人制度施行

10月 | 後期高齢者医療制度改正施行

💬 ユーキャン新語・流行語大賞

「村神様」

→ 2023

♥ 社会保障・社会福祉関連トピック

4月 | こども家庭庁発足

4月 | 新型コロナ5類移行

💬 ユーキャン新語・流行語大賞

「アレ(A.R.E.)」

→ 2024

♥ 社会保障・社会福祉関連トピック

1月 | 能登半島地震

6月 | 孤独・孤立対策推進法の成立

💬 ユーキャン新語・流行語大賞

「ふてほど」

利用者様が語る10年



運動会の玉転がしで優勝したこと。
近所の小学生とボッチャをしたこと。
後日、その学校の子どもたちから「ありがとう」の手紙をもらったこと。
和光祭でマンガを買ったこと。
この10年、楽しいことがたくさんありました。
ここでの日課は、タオル畳みと大好きなパズルをすること。
コンビニやショッピングセンターへ行くことを
楽しみにしてがんばっています。
先日外出したときに、
お気に入りの洋服を選んだりしました。
そんなふうに、毎日楽しく過ごしています。
職員さんもがんばってくれていて、
やさしくて、大好きです！



障害者支援施設 輝

大森 照子さん（77歳）

2015年、障害者支援施設 輝入所。タオル畳みをいつもすばやくきれいにしている。外出での楽しみは、ショッピングセンターのフードコートでオムそばを食べること。



職員さんみんな、
がんばってくれてる。
大好きです！

障害者支援施設 魁

本田 和友さん（41歳）

2008年、障害者支援施設 魁入所。日中活動では、ファームでの無農薬野菜の栽培に従事。仕事以外の時間は、テレビでスポーツ観戦したり、職員と談笑したりすることが日課になっている。

職員さんや
施設の人など行く、
日帰り旅行が楽しみです。”

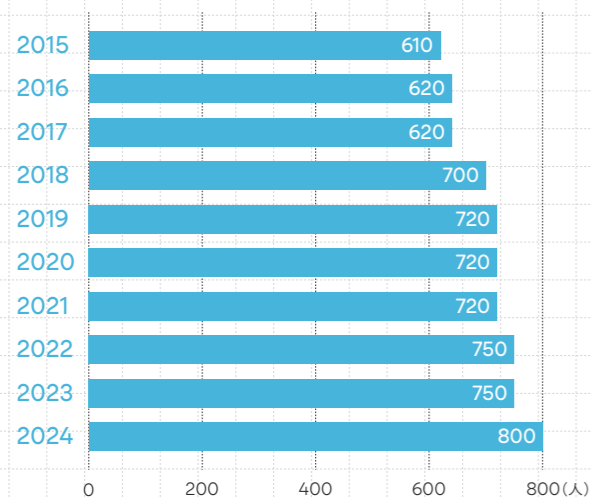


南山城学園に来てから、もう17年になります。
いろんなことがありましたが、コロナの時期は大変でした。
日帰り旅行にも行けない期間が続きましたが、
ようやく今年からまた行けることになり、とても楽しみです。
新卒の職員さんも入られたので、
いっしょに行けたらなと思っています。
ふだんは、ほぼ毎日畑に出て農作業をしています。
野菜ができていたら収穫し、袋詰め。
それから野菜の納品も自分たちで行います。
私たちの育てた野菜は、カフェの「さびゆいえ」
「ぶちぽんと」「ぷらんたん」で食べられます。
栽培中は無農薬なので、体にもよくておいしいですよ。
これからもどんどん野菜を納品して、がんばったごほうびに
「アルプラザに行きたいなあ」とみんなで話しています。

理念をかたちに。 数字で見る南山城学園の挑戦

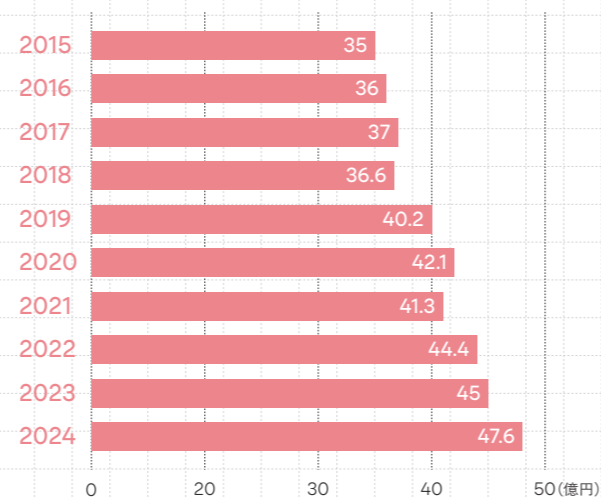
～数字でみる南山城学園の10年～

この10年、南山城学園は「利用者様の尊厳を守り、幸福を追求する」という基本理念のもと、地域福祉の担い手として着実な歩みを続けてきました。職員数・事業所数も増加し、専門性の高い支援体制が整備されました。また、「共生・共助」の地域づくりに貢献すべく、地域ニーズに応じた新たな福祉サービスの創造にも注力。研修回数や実習生・インターンシップの受け入れ数の伸長は、社会的信頼の証です。数字は、理念の実践と地域への貢献を物語っています。



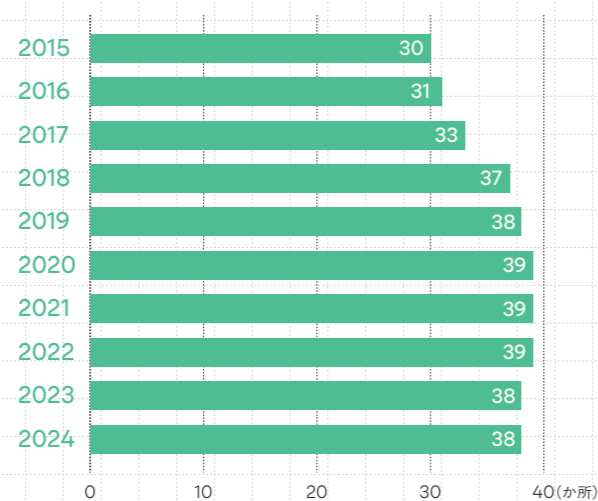
職員数

この10年で職員数は着実に増加し、専門職の比率も向上。多様なニーズに応える体制強化が、質の高い福祉サービスの提供を支えています。



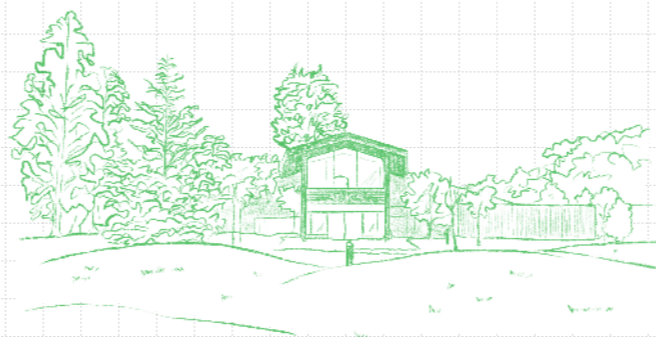
経常収入

この10年で経常収入は安定的に推移し、事業拡大やサービス多様化に伴い増加傾向を示しています。持続可能な運営基盤の強化に寄与しています。



主な事業所数

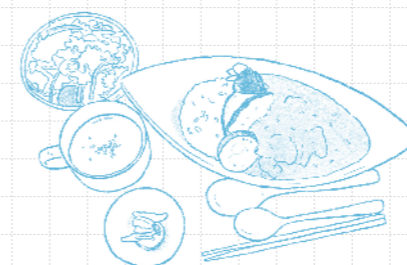
この10年で事業所数は着実に増加し、障害福祉・高齢者支援・生活困窮・保育など多分野に展開。地域に根ざした包括的支援体制の構築が進んでいます。



2,627回

この10年間で、 法人内で開催した職員研修の回数

この10年で職員研修の開催数は大幅に増加。専門性向上と理念浸透を目的とした体系的な研修が、質の高い支援と人材育成を力強く後押ししています。



241,840人

カフェを利用した お客様の数

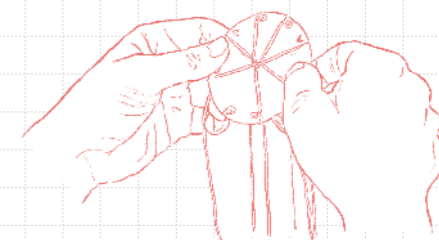
この10年でカフェ利用者数は大きく増加。地域住民との日常的な交流の場として定着し、障害のある方の社会参加と地域共生の実践拠点としての役割を果たしています。



3,892人

新卒エントリー数

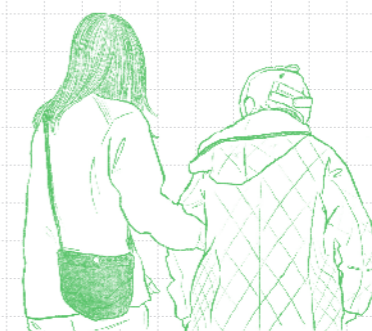
この10年で新卒エントリー数は変動。少子高齢化による学生数の減少や他産業との採用競争が激化する中、福祉の魅力発信と働きがいの訴求が重要性を増しています。



1,361人

障害のある方を支援して 就職につながった人数

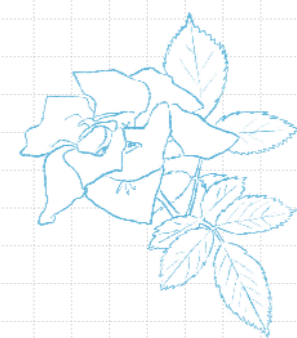
この10年で就職につながった支援実績は着実に増加。個別支援計画と企業連携の強化により、障害のある方の社会参加と自立支援が大きく前進しています。



644人

実習・インターンシップの 受け入れ人数

この10年で実習・インターンシップ受け入れ人数は増加。現場体験を通じて福祉の魅力を発信し、次世代人材の育成と福祉の魅力発信に貢献しています。



利用者様の幸福追求に向けた 研究と実践の往還

～研究活動と南山城学園の10年～

南山城学園は、利用者様の幸福を中心に据えた支援の質向上を目指し、過去10年間にわたり実践と研究の往還を重ねてきました。

生活の中での気づきを出発点に、エビデンスに基づく支援モデルの構築と検証を推進。特に、意思決定支援、行動障害への対応、地域共生社会の実現に向けた取り組みでは、実践知と理論の融合を図り、全国的な発信も行ってきました。今後も、利用者様一人ひとりの「その人らしい暮らし」の実現に向け、研究と実践の往還を深化させてまいります。



過去10年の実践研究発表のカテゴリー

| | |
|----------------|-----|
| 自閉症・強度行動障害支援 | 28件 |
| 就労支援・社会参加 | 22件 |
| 高齢者介護・認知症ケア | 18件 |
| 地域連携・共生社会 | 16件 |
| 個別支援計画 | 14件 |
| 食支援・栄養管理 | 12件 |
| 保育・子ども支援 | 10件 |
| ICT・DX・AI活用 | 8件 |
| 余暇活動・創作活動・環境整備 | 6件 |
| 職員育成・組織運営 | 6件 |

過去10年の実践研究発表数

| | |
|-------|-----|
| 2015年 | 10件 |
| 2016年 | 13件 |
| 2017年 | 12件 |
| 2018年 | 14件 |
| 2019年 | 14件 |
| 2020年 | 14件 |
| 2021年 | 15件 |
| 2022年 | 16件 |
| 2023年 | 16件 |
| 2024年 | 16件 |

実践研究発表会 最優秀賞受賞研究 2015～2025

| 2015 | 2016 | 2017 | 2018 | 2019 | 2020 | 2021 | 2022 | 2023 | 2024 |
|-----------------------------------------------|-----------------------------------|--------------------------------------------|--------------------------------------------|-------------------------------------------|------------------------------------|----------------------------------------|-----------------------------------------------------|---------------------------------------------|----------------------------------------------|
| 自閉症支援におけるアセスメントの意義（PEP3からみてきたもの） 障害者支援施設 光 | 排泄ケアの可能性（過ごし方から見る変化） 障害者支援施設 輝 | 地域とのつながりの中で「ほんず」活動を通して見えてきたもの 障害者支援施設 和 | 「健口」を支援する取り組み（セイダ式口腔ケアを通して） 障害者支援施設 和 榎 | 農福連携事業への参画（農作業の提供を通して地域への貢献） 障害者支援施設 魁 | 子ども主体の保育へ（個を大切に）する保育の実践 もりの詩保育園 | 「プロンプトによる自立支援（QOL向上のために）」 障害者支援施設 光 | PECSフェイズV・VIの実践（叶えるための要求から分かち合うための共感へ） 障害者支援施設 光 | Let's DX（安心安全な生活を目指したICT技術の活用） 障害者支援施設 円 | 煌めく笑顔（意識改革が導いたそれぞれのwell being） 介護老人保健施設 煌 |

Interview

実践研究で感じた
“利用者様の可能性”を、
日々の支援で
広げていきたい。

2024年度 実践研究発表会 最優秀賞
加茂 晴奈さん（2020年新卒入社）



目が向きにくい 精神的欲求に着目

煌では、「煌めく笑顔～意識改革が導いたそれぞれのwell being～」と題して、ウェルビーイングの実現をめざす個別余暇支援の実践研究に取り組みました。この取り組みの背景には、夜間に目を覚ます利用者様に日中の「傾眠」や「手持ち無沙汰な時間」が多くあること。また、職員アンケートで「利用者様の個別余暇支援を十分に提供できていない」という意見が6割を占めていたことが挙げられます。

そこで、目が向きがちな物理的欲求ではなく、利用者様の精神的欲求に着目し、それぞれの能力・嗜好・意欲といったストレングスを増大させるケアを提供しようということに。多職種のチームを形成し対象の利用者様にあう個別余暇支援を行った結果、幸福を示す指標であるME値が向上し、精神的欲求の充足へつなげることができました。

多職種連携で ストレングスを引き出す

実践研究は、①多角的アセスメントの実施→②個別余暇支援の決定→③個別余暇支援の提供→④データ収集という手順で進めていきました。利用者様とのコミュニケーションから個別余暇支援を検討していくわけですが、介護職員はユニット型で支援しているので、お一人との時間を毎日十分にとれるわけではありません。そんなとき、確実に1対1で向きあえるリハビリの時間から聞き出せることが多くありました。そんなことができるのも、多職種でチームがつくれる煌の強み。さまざまな視点が集まることで、より本質的な利用者様の「本当のニーズ」や「暮らしの希望」が捉えやすくなります。

みえたのは、 利用者様の可能性

認知症の進行具合によっては、その日は楽しくできても、次の日はそうでないことも。数回・数分の実施では定着しない難しさもありました。また、施設内の限られた空間の中でどのような個別余暇支援を提供できるかというところには、ずいぶん頭を悩ませました。けれど、そういった点も含め、あらためて“利用者様の可能性”について知ることができたと思います。利用者様から「何かあればなんでも言ってください！」という声が聞けたり、車椅子から自ら立ち上がる姿を見られたり、これまでなかったほかの利用者様との交流も増えたり。自発的な意欲を引き出す支援ができたと同時に、いかにお一人おひとりにあった個別余暇支援が重要かということが実感できました。この点については、実践研究の審査においても評価され、ポイントとなったところでもあります。

その人にあう暮らしを、 これからも

家事や菜園、足台の製作を利用者様をお願いすることで、職員と利用者様が「ありがとう」を伝えあう関係が生まれました。これにより、利用者様にとっても過ごしやすく、職員にとっても働きやすい環境に変化したのではないかと感じます。今後は、令和6年度介護報酬改定にて新設された「認知症チームケア推進加算」のひとつであるワークシートを使用し、「その人らしい暮らしの実現プラン」について検討し、さらに深めていく予定です。研究活動で得た知識と経験は、必ず日々の支援に役立ちます。そんな機会をいただけたことに感謝しています。

60周年によせて
石を積み、
問いを続ける

安達茉莉子



南山城学園の職員のみなさんにお話を伺い、聞き語りの冊子を作る——新卒採用広報プロジェクトの一環として始まった企画が、『らせんの日々——作家、福祉に会う』（ほくみん出版会）として1冊の本になった。

2024年9月下旬、南山城学園・彩雲館に約1週間宿泊し、滞在取材を行った。若手からベテラン職員までお話を伺い、彩雲館に戻る日々。部屋には実践研究レポート集『希求』と、広報誌『サムシングニュー』のバックナンバーが並んでいた。直接の対話に加え、残された言葉を通じた、過去の誰かとの対話が始まった。

初期の『希求』は、実践レポートだけでなく、職員の方々の思いが綴られたエッセイ調の文章もある。福祉の文芸誌と呼びたくなる文章も多い。ある号の編集後記に、こんな言葉があった。

「今年も一冊の実践レポート集を纏めることが出来ました。(中略) いづれも目標を明確にもった熱意ある援助業務の記録です。このレポート集は、たとえば、山道に積まれた石積みのケルンのようなものではないかと考えています。一編のレポートは、その石積みのケルンの一片の石片です。職員一人ひとりがその石片を一つ一つ積み上げて、いつの日か山行く人々の良き道しるべとなるような、りっぱなケルンを完成させたいと思います。」(『希求』第IV集)

ケルンとは、登山道で見かける、石を円錐状に積んだものだ。道に迷わないように目印にするもので、わかりにくい道や霧の中でも、そこが登山道だとわかる。

この文章を読んで、京都在住のある写真家の方に「才能」とは何か聞いたときのことを思い出した。彼は少し考えて、こう言った。

「[〃]的[〃]に向かって、石を投げ続けられること」

写真の良し悪しが才能なのではない。写真を、撮り続けていくこと。やり方を変え、いろんな角度から、諦めずにチャレンジし続けることこそが才能なのだ。

いろんな角度から、諦めずにチャレンジし続けることこそが才能なのだと。

石を積むこと。石を投げ続けること。どちらも、問いをもち、試し続けていくことだ。目の前の人に向き合う日々が、後に続く人への道標になる。

『らせんの日々』は、南山城学園に関わる方々の言葉が詰まった本だ。誰かの言葉



〈日々〉土屋未久

や姿が、別の誰かに受け継がれている。タイトルの「らせん」も、職員であった谷本博司さんが、生前に福祉について記した言葉からきている。

「上から見れば、堂々めぐりのように見え、横から眺めれば後退しているようにも見える。しかし、事實は、一步一步であろうとも、確実にせり上がってゆくもの、それが“らせん”である。福祉に従事することは、多かれ少なかれ、“らせん”のようなものである。」

この言葉は『希求』にも残っている。道傍に積まれたケルンを見るとき、誰かがこの道を歩き、ここで立ち止まり、何かを伝えようとしていたことを感じる。福祉は答えが簡単には見つからない世界だと、取材の中で伺った。毎日の繰り返しや営みが続けていく中に、本当の答えはあるはずだ、と。

丁寧に編まれた実践研究集の中に、より良い支援のためにと誰かが立てた問いが残っている。答えのない世界で、話し合い、試し続ける。ひとりではない。職員同士で支え合う。日々の支援で積み重なる実践知。

南山城学園で続けられた実践は、時代を越えて広がり、そして現在、本の形で、社会を生きるさまざまな人の元へと届いている。受け継がれてきたことのすべてが、誰もがより生きやすい社会につながっていることを、心から願っている。

60年という節目に立ち合い、関わらせていただいた幸運に、深く感謝を申し上げます。

安達茉莉子（あだち・まりこ）

作家・文筆家 大分県日田市出身。東京外国語大英語専攻卒業。サセックス大開発学研究所開発学修士課程修了。政府機関での勤務、限界集落での生活、英国大学院留学などを経て、言葉と絵による表現の世界へ。自己の解放、記憶、暮らし、旅、セルフケアなど、「生」をテーマにした執筆を続ける。このほか、詩作、朗読会、トークイベント、講座など幅広く活動している。

NEXT VISION 2035

南山城学園は創立60周年を機に、未来への指針「NEXT VISION 2035」を策定しました。「暮らしの質の向上」「経営資源の有効活用」「創造性の発揮」を三本柱に、人材戦略や施設再編、医療的ケアの充実、研究・研修体制の強化、災害対応力の向上、地域生活課題への実践的対応を推進。中期経営計画2030を基盤に、質の高い支援と地域共生社会の実現を目指します。

VISION 02 Resource

経営資源の有効活用

02-1 「研究・研修事業の強化」

スーパーバイザーの外部派遣をはじめ、法人が60年にわたり培ってきたノウハウ・資源・人材を地域社会へ還元し、福祉人材の育成に貢献する。また、産官学連携による共同研究を強化し、新たな福祉サービスを創出するとともに、広く社会に発信する。

02-2 「災害対応の強化」

災害発生時の利用者支援体制を強化するため、BCPの見直しや自家発電設備の整備を進める。また、地域支援体制の強化として、福祉避難所の運営訓練の継続実施や専門人材の配置を進める。



VISION 01 Quality

暮らしの質の向上

01-1 「人材確保・育成・定着と生産性向上」

地域の人々の暮らしを支え、質の高い福祉サービスを提供し続けるため、働きやすく働きがいのある人事制度の構築や研修制度の見直し、AI・ICTの活用による生産性の向上等を通じて、人材確保・育成・定着の更なる強化を図る。

01-2 「障害者支援施設とグループホームの再編」

法人が60年にわたり培ってきた障害分野のノウハウをもとに、重度障害者の支援強化や地域移行の推進など、将来のニーズを見据えた施設の役割や機能を整理し、再編する。

01-3 「社会的養育事業の展開」

社会的養護を必要とする子どもや家族に適切な支援が届く重層的な施策の構築が求められるなか、新たに乳児院を開設し、医療的ケアや発達障害などのニーズにも対応する。

01-4 「こども事業の拡充と医療的ケアの強化」

子育て世帯が増加する地域での保育や学童ニーズに加え、専門的な支援ニーズに対応するため、発達障害に特化したクリニックと、医療的ケアに対応できる認定こども園を開設する。また、教育分野と連携し、放課後等デイサービスや学童保育を開設する。



VISION 03 Creativity

創造性の発揮

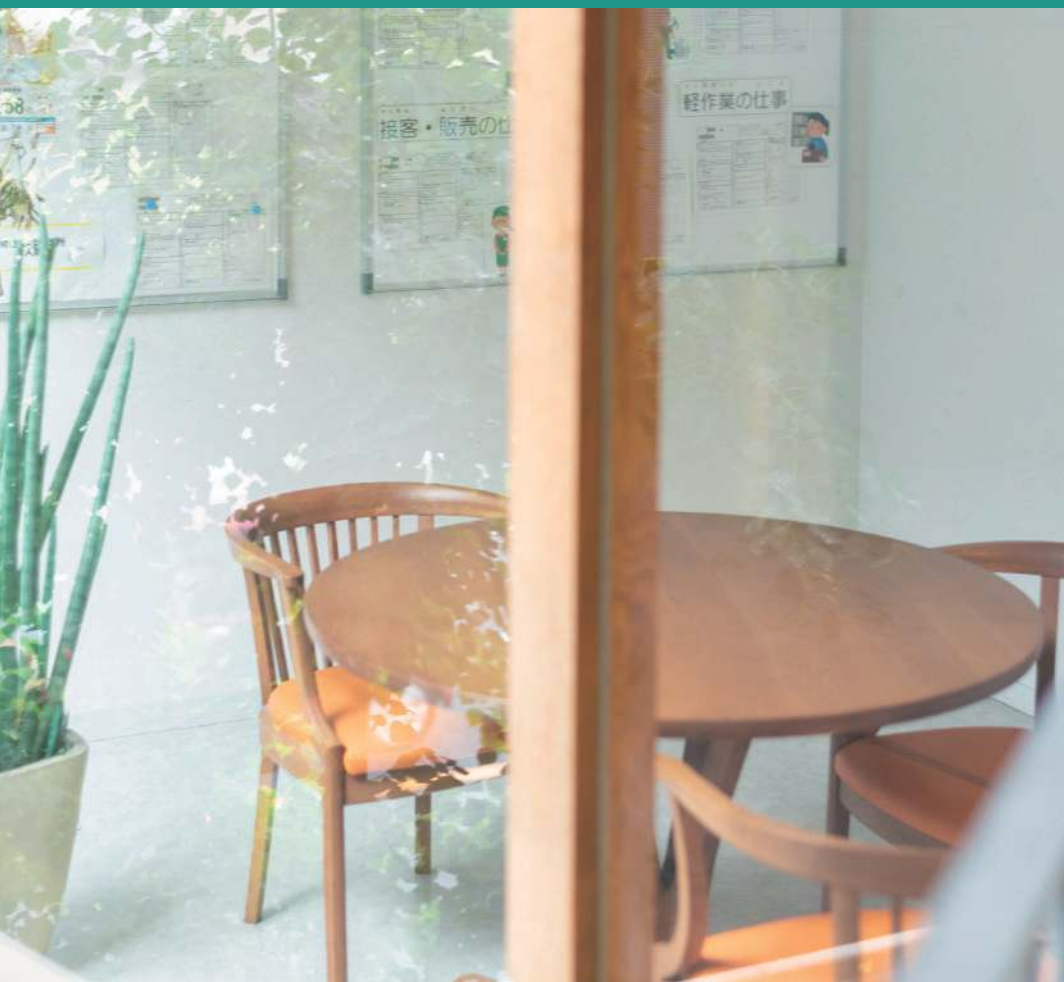
03-1 「地域生活課題への対応強化」

地域共生社会の実現に向けて、社会福祉法人の役割を一層果たすべく、孤独・孤立や生活困窮、多世代交流等、複雑化・複合化する地域生活課題に「地域における公益的な取組」の実践を通じて対応する。



2025年4月～2030年3月 中期経営計画2030

| 長期ビジョン | 項目 | 実施期間 | | | | | 実施責任者 |
|--------------|-------------------------|---------------------------------|-------------------------|-------|---------|-----------------|----------------------|
| | | 2025年 | 2026年 | 2027年 | 2028年 | 2029年 | |
| 01.暮らしの質の向上 | 01-1 人材確保・育成・定着と生産性向上 | 人事制度・研修体系の見直し検討 | 新研修体系に基づく研修開始 | | | | 事務局長・次長 |
| | 01-2 障害者支援施設とグループホームの再編 | 情報分析制度動向の把握 | 再編計画の策定 | | | | 福祉事業局長・次長 |
| | 01-3 社会的養育事業の展開 | 情報分析、制度動向の把握 | | | 工事、開設準備 | 乳児院の開設 | 事務局長・次長 |
| | 01-4 こども事業の拡充と医療的ケアの強化 | 情報分析、制度動向の把握、学童保育・放課後等デイサービスの開設 | | | 工事、開設準備 | クリニック・認定こども園の開設 | 事務局長・次長 |
| 02.経営資源の有効活用 | 02-1 研究・研修事業の強化 | 既存事業の継続（スーパーバイザーの派遣等） | | | | | スーパーバイザー |
| | 02-2 災害対応の強化 | BCP見直し・自家発電設備の整備、福祉避難所の運営訓練の実施 | 専門人材の配置 | | | | 福祉事業局長・次長 事務局長・次長 |
| 03.創造性の発揮 | 03-1 地域生活課題への対応強化 | 情報分析制度動向の把握 | 既存事業の発展（生活困窮者・ひきこもり支援等） | | | | 事務局長・次長 |



社会福祉法人

南山城学園

Minami yamashiro gakuen

南山城学園の過去・現在・未来 ～この道は遠くとも～

2025年7月発行